

三遠南信レポート

2023年11月6日

一般財団法人しんきん経済研究所

主席研究員 澤柳俊睦

経済センサス活動調査からみた遠州地域の製造業

●遠州地域の製造品出荷額等と事業所数

(単位：万円)

2020年	製造品出荷額等	事業所数	1事業所当たり 製造品出荷額等
浜松市	182,376,148	1,783	102,286
湖西市	164,918,403	182	906,145
磐田市	141,375,900	511	276,665
掛川市	118,773,154	332	357,750
袋井市	57,269,147	215	266,368
菊川市	23,029,130	156	147,623
御前崎市	11,745,943	102	115,156
森町	10,980,038	72	152,501
遠州合計	710,467,863	3,353	211,890
全国合計	30,200,327,300	176,858	170,760

・製造品出荷額等

2020年の遠州地域製造業の製造品出荷等をみると、浜松市が1兆8,237億円と一番大きく、次いで湖西市が1兆6,491億円であった。遠州地域で製造品出荷額等が一番小さかったのは、森町であった。

・事業所数

2020年の遠州地域製造業の事業所数をみると、浜松市が1,783件で一番多く、次いで磐田市が511件であった。製造品出荷額等で2位だった湖西市は、5位に下がった。一番少なかったのは、森町であった。

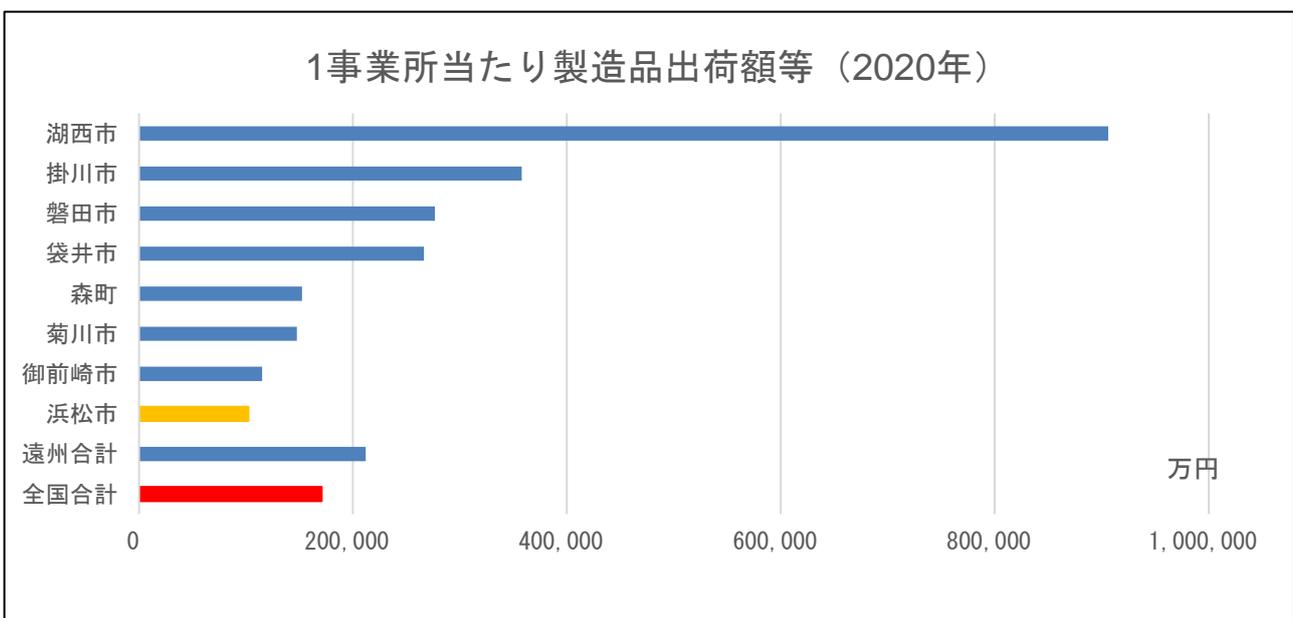
出所：経済センサス活動調査

・1事業所当たりの製造品出荷額等

2020年における製造品出荷額等を事業所数で除した「1事業所当たり製造品出荷額等」をみると、順位が大きく入れ替わる結果となった。製造品出荷額等、事業所数ともに1位だった浜松市が、10億円とワースト1位となった。全国合計17億円をも下回り、小規模の中小企業が多数集積していることが分かった。いわゆるモノづくりのまちの産業構造となっている。

逆に湖西市は、90億円と1位となり、大企業が集積していることが推察される。

1事業所当たり製造品出荷額等（2020年）



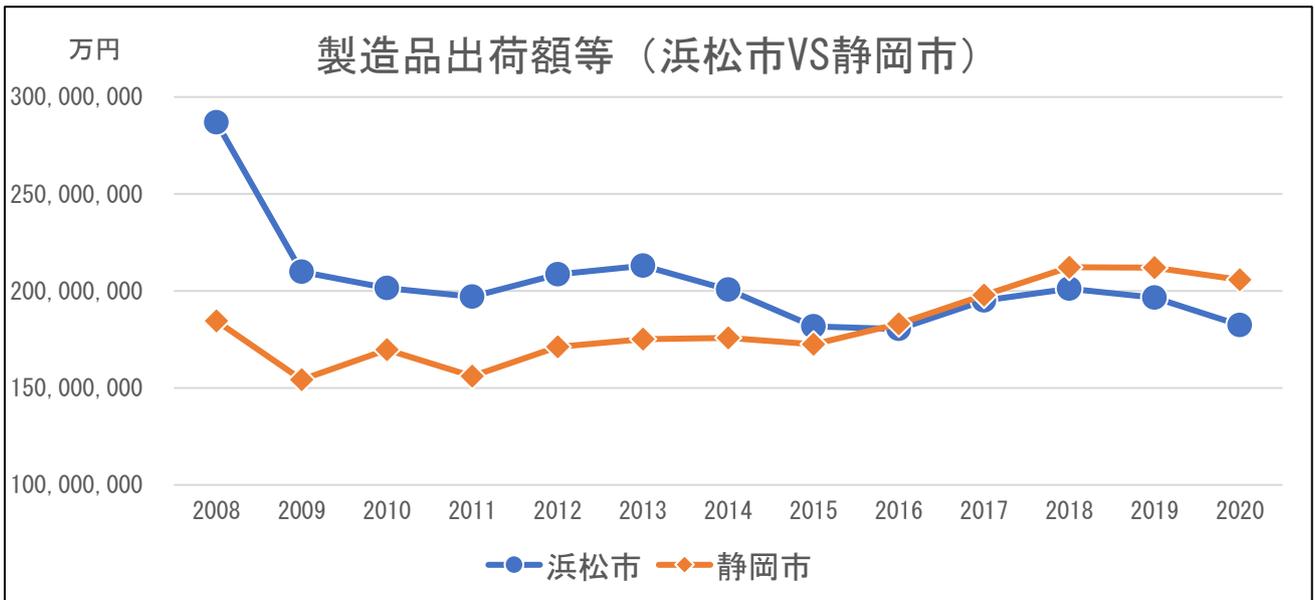
出所：経済センサス活動調査

三遠南信レポート

そこで、モノづくりのまちである浜松市を経済センサス活動調査等を利用して、さらに深掘りし、今後の産業振興策について考察してみたい。

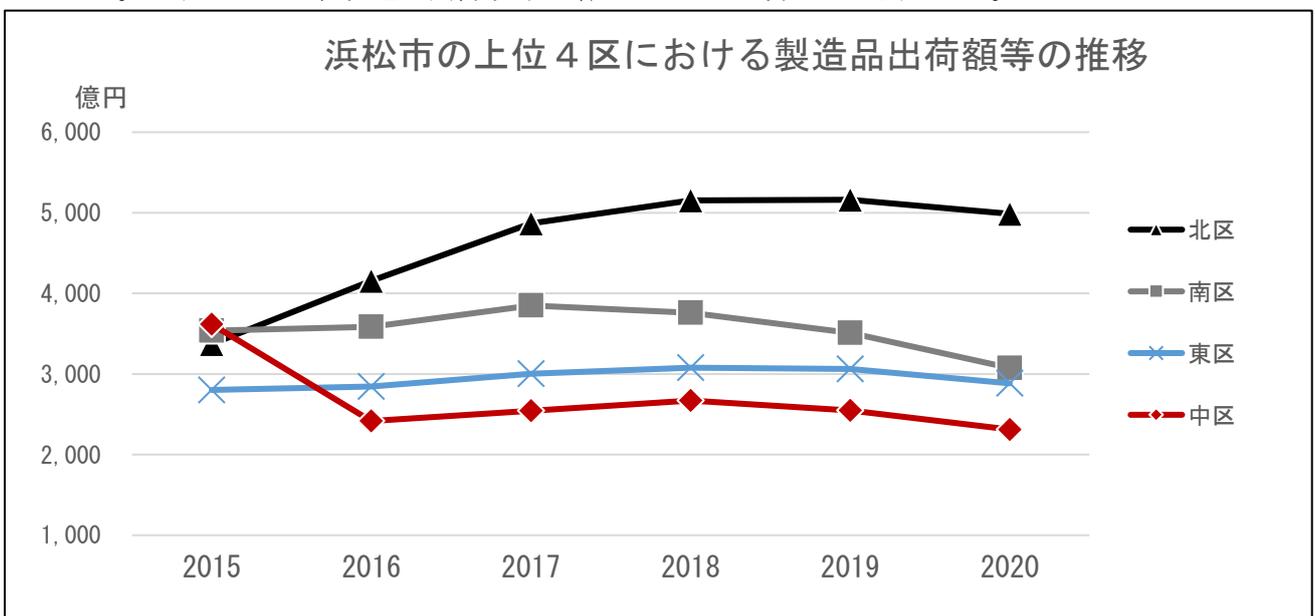
●浜松市の製造品出荷額等の推移

今から7年前の2016年、浜松市の製造品出荷額等が静岡市に抜かれた時は、衝撃が走った。その後も状況は変わらず、さらに差が拡大している。浜松市の製造品出荷額等がリーマンショックで大きく減少した後、さらに減少し、増加傾向にあった静岡市を下回ったのが実態である。



以下グラフの出所：工業統計調査・経済センサス活動調査

なぜ工業都市を自負する浜松市が、静岡市に抜かれたままなのか。下のグラフは浜松市全体と上位4区の製造品出荷額等の推移をグラフ化したものである。それによると、北区は、順調に増加しているが、中区と南区の製造品出荷額等が減少し、北区の伸びを相殺してしまっているのである。これは、中区・南区から北区に企業が移転したか、仕事自体が減ったことなどが考えられる。残りの区は、ほぼ横ばいであった。いずれにせよ、製造品出荷額等を増加させていく努力が必要である。



三遠南信レポート

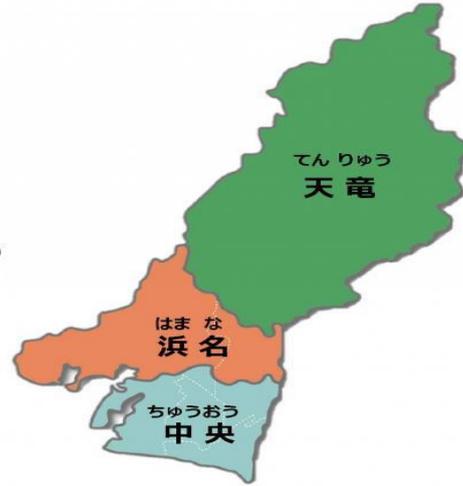
●浜松市の区の再編

人口減少・少子高齢化のさらなる進行、デジタル化の急速な進展などの将来を見据え、持続可能な行政サービスを維持・強化するため、2024年1月1日から7区を3区に再編する。今後、製造業の中心は中央区（中区・南区・東区・西区）から浜名区（北区・浜北区）にシフトしていくことが考えられる。

◆ R5.12/31まで（7区）

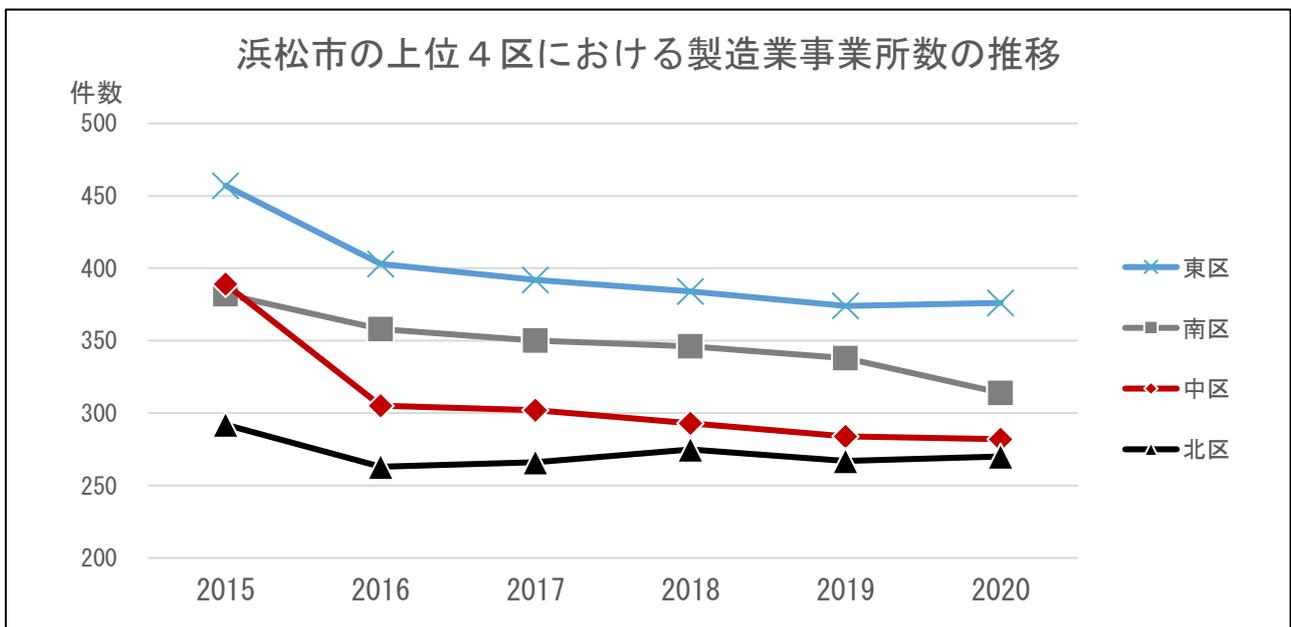


◆ R6.1/1から（3区）



●浜松市製造業の事業所数の推移

では、浜松市製造業の事業所数の推移はどうなっているのか。また、製造品出荷額等の推移のところ、中区・南区から北区に企業が移転したとの仮説を立てたが、果たしてどうなのか。下の浜松市の上位4区における製造業事業所数の推移グラフによると、どの区の仕事所数も、2015年比で減少している。北区においても製造品出荷額等は増加したが、事業所数は減少している。ゆえに、中区・南区から北区に企業が移転した事例はあるが、事業所数が増えて製造品出荷額等が増えたわけではないと言える。大手の企業などが北区に移転し、製造品出荷額等を押し上げたのではないかと推察される。



三遠南信レポート

●大手製造業の移転事例

- ・スズキ自動車：2014年1月 都田区域工業団地の建設開始
2018年9月 浜松工場が完成し、二輪車の生産を開始
浜松市北区都田町 8686 敷地面積 177,000 m² 二輪車生産



- ・ヤマハ発動機：2016年末 浜松ロボティクス事業所が完成し、生産開始
2023年1月 建屋の増改築に着工→2024年6月完成
浜松市北区豊岡町 127 延床面積 52,317 m²→82,042 m² (増築後)
表面実装機、産業用ロボットの開発・製造・販売



三遠南信レポート

●浜松市の企業立地の推進

しかし、浜松市も手をこまねいていたわけではない。「企業立地推進課」が、積極的に企業を誘致または立地企業に補助金を出してきた。補助金制度が創設された 2007 年度からの 15 年間で補助金を交付した約 2 百社からの税収は計約 285 億円に上るとともに、新規雇用従業員は 3 千人を超え雇用効果も大きいという。近年では、浜松 SA スマート IC にも近く、優れた交通アクセスの好立地にある、第三都田地区の工場用地が、完売となっている。今後、精密減速機で世界シェア 60%を占めているナブテスコの工場も稼働する予定である。

- ・ナブテスコ：2023 年 10 月 浜松工場完成→稼働は 2024 年に延期
2030 年 年産 120 万台の定時生産能力を構築する計画
浜松市北区都田町 第三都田地区工場用地 11 区画
延床面積 181,700 m² 投資額約 470 億円 精密減速機



●産業振興策

では、コロナ後の産業振興はどうあるべきか。

第一に「モノづくりのまちのポテンシャルをさらに発揮」することである。技術力があっても活かし切れていない部分がまだまだあると思う。

第二には「産業の芽の育成」である。コロナ禍でサプライチェーンの崩壊など経済環境が変わり、新たな環境対応に迫られている。そのような中で、これからの浜松、さらには日本を背負って立つ産業の芽を育てることが大切である。

第三には、「マッチングの機会の創出」である。個々の企業のポテンシャルは高いので、マッチングをすることで新たな相乗効果が出るのが期待される。市や金融機関などの支援機関は、より積極的にマッチングの場を提供してほしいものである。